

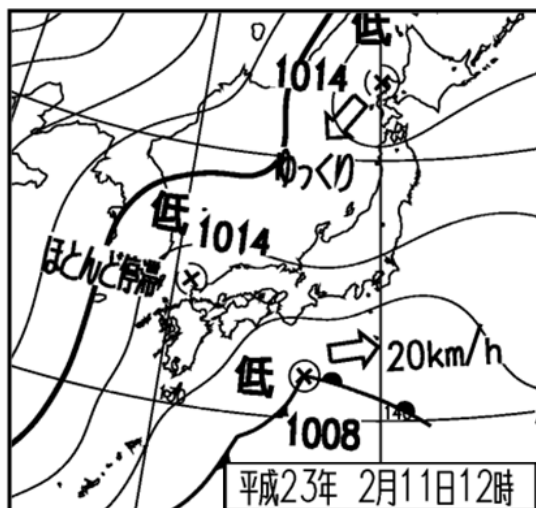
2月11日と14日の雪について

1 2月11日の雪

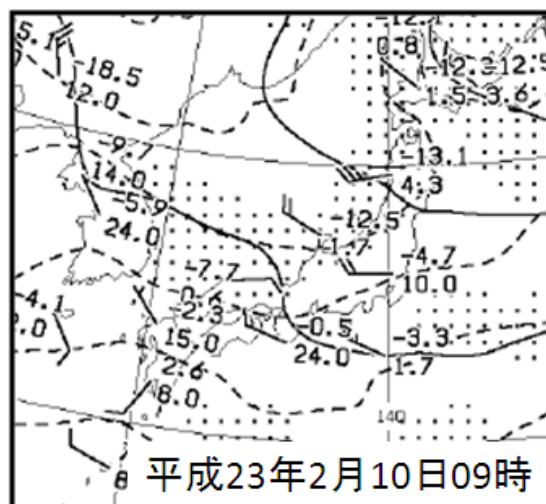
(1) 概況

2月10日から11日にかけて日本の南海上を低気圧が東進した(第1図)影響で、関空島では11日未明から雪が降り、朝09時の観測では1cmの積雪となりました。この積雪は、1996年2月17日に1cm、18日に4cmを観測して以来で、関空島で観測を始めた1995年以降、3回目の積雪となりました。

この雪による影響としては、出発便の遅延が44便で、空港連絡橋は40km/hの速度制限となり、阪神高速道路が全面通行止めとなったため関西空港発着のリムジンバスは和歌山線を除きすべて運休となりました。



第1図 11日12時の地上天気図



第2図 10日09時の850hPa天気図

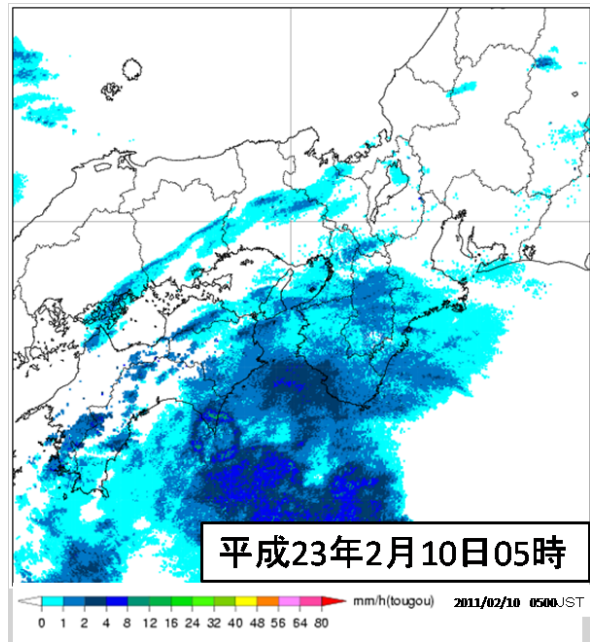
(2) 関空島の実況と予想

9日から10日にかけて、冬型の気圧配置となった影響により、西日本では下層にすでに寒気が入っている状況でした(第2図)。関空島では10日夜遅く降り始めた雨が、11日未明にはみぞれ、さらに雪にかわり、02時50分からは視程が5km未満となりました。また03時からシーリングも低下し、800ft以下となりました。このあと、降雪と共に悪視程、低シーリングの状態が続きましたが、昼過ぎには雪が弱まって急速に回復し、雪は13時20分に止まりました(第3、4図)。

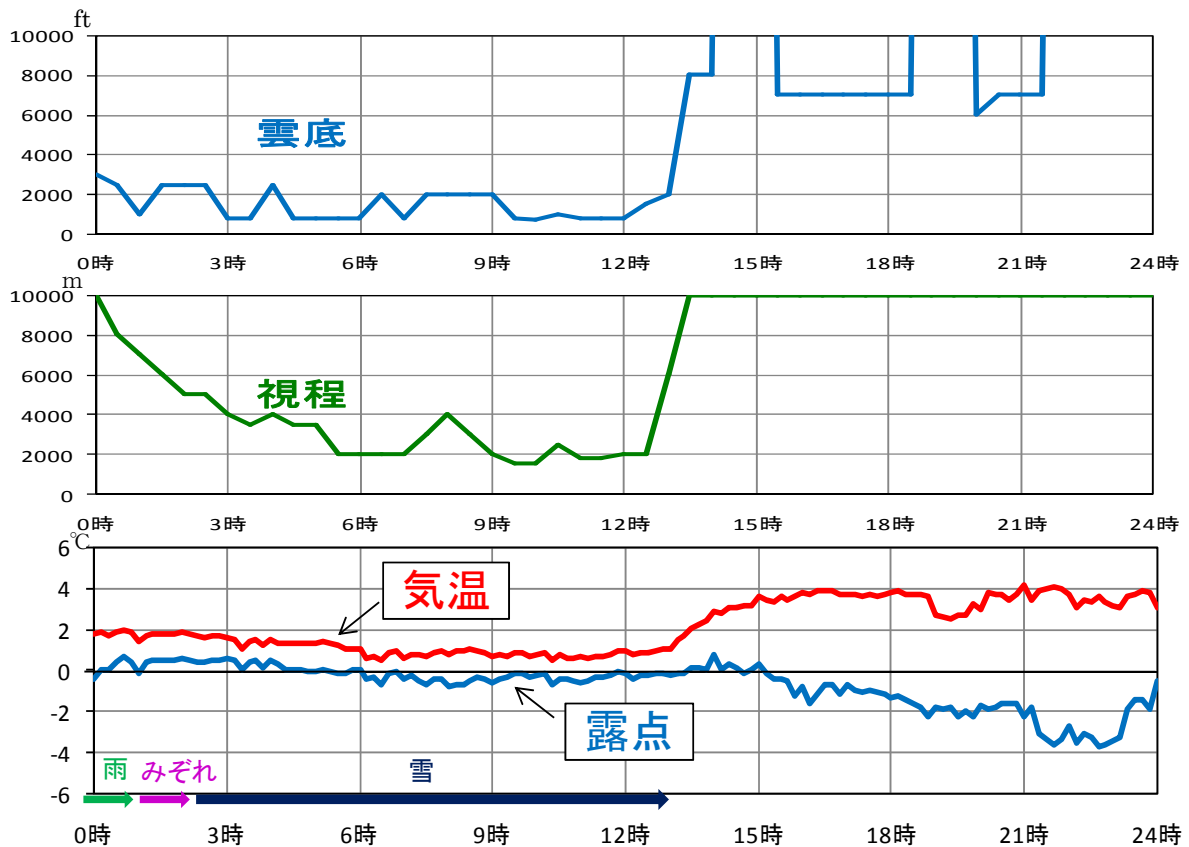
10日夜以降は、関空島の上空では975hPa(高度350m付近)より高いところで気温は氷点下

となることが予想されており、11日朝にかけての地上気温予想は2℃以下で、最低気温の予想は0℃でした。このように、融解層が次第に低くなり、上空から落下してくる雪が融けにくくなるため、雨は次第にみぞれとなり、さらに雪に変わることが予想されていました。融解層とは雪やあられが落下中に融けて雨になるまでの大気層のことで、この層ではみぞれが観測されます。

なお、10日夕方(07UTC)に発表したFCST COMMENT(冬季情報)では、「RWYやエプロンでは積雪とならない見込みですが、駐機中の機体などにはスラッシュ状の雪が付着する可能性があります」と注意喚起はしていましたが、積雪までとはならないと考え、降雪は0cmと予想していました。



第3図 10日05時のレーダーエコー図



第4図 11日の雲底・視程・気温・露点・天気の変化

(3) 飛行場予報等

飛行場予報等の発表状況は以下のとおりです。

①飛行場予報

TAF RJBB 100244Z 1003/1106 03010KT 9999 FEW020 SCT050
 BECMG 1015/1018 4000 -SNRA BR
 TEMPO 1018/1024 2000 -SN BR FEW005 BKN009 BKN025
 BECMG 1100/1103 7000 NSW=

TAF RJBB 100847Z 1009/1112 05012KT 9999 FEW020 BKN050
 BECMG 1015/1017 4000 -SNRA BR
 TEMPO 1018/1024 2000 -SN BR FEW005 BKN009 BKN025
 BECMG 1100/1103 7000 NSW=

②飛行場警報

なし。

③飛行場気象情報

なし。

④FCST COMMENT

10日16時00分 FCST COMMENT (冬期情報)

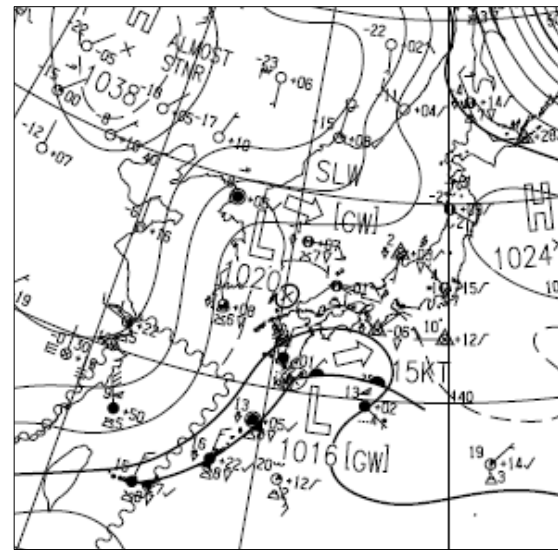
11日07時00分 FCST COMMENT (定時)

2 2月14日の雪

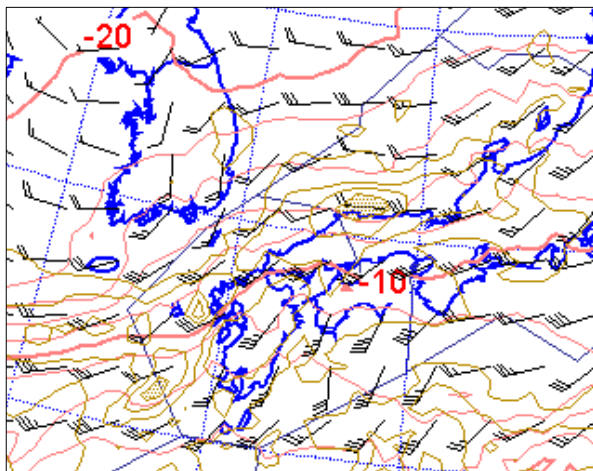
(1) 概況

14日朝、九州の南海上に低気圧があつて東北東に進んでいました(第5図)。この低気圧の北側には降水域が広がり、一方で西日本の上空9,000ft付近に-10℃の寒気が入り(第6図)、800ft付近でも氷点下となっていたため、標高の高いところではみぞれや雪となっていました。09時には、西日本にレーダーエコーが広がり(第7図)、大分空港や松山空港で雨、標高の高い広島空港や高松空港では雪が観測されています。低気圧の東北東進に伴い、降水域も東に移動し、関空島では昼前から雪が降り始めました。この雪の影響で14日昼過ぎから15日朝にかけて、航空機出発の遅延、関空連絡橋の一時通行止めなどの影響がありました。

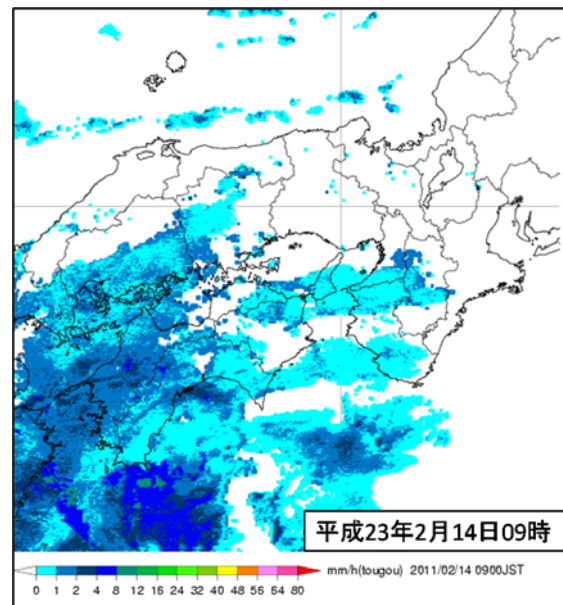
なお、中部空港では昼過ぎから雪となり、さらに羽田空港でも夕方から雨、19時頃からは雪となって15日明け方まで続き、航空機の運航に大きな影響をもたらしました。



第5図 2月14日9時の地上天気図



第6図 2月14日9時の毎時大気解析
 桃線は等温線(2℃間隔)、矢羽は 65kt、茶線は風鉛直シア(3kt/1000ft 間隔で一番外側の線が3kt/1000ft、山陰の陰影部は12kt/1000ft以上)



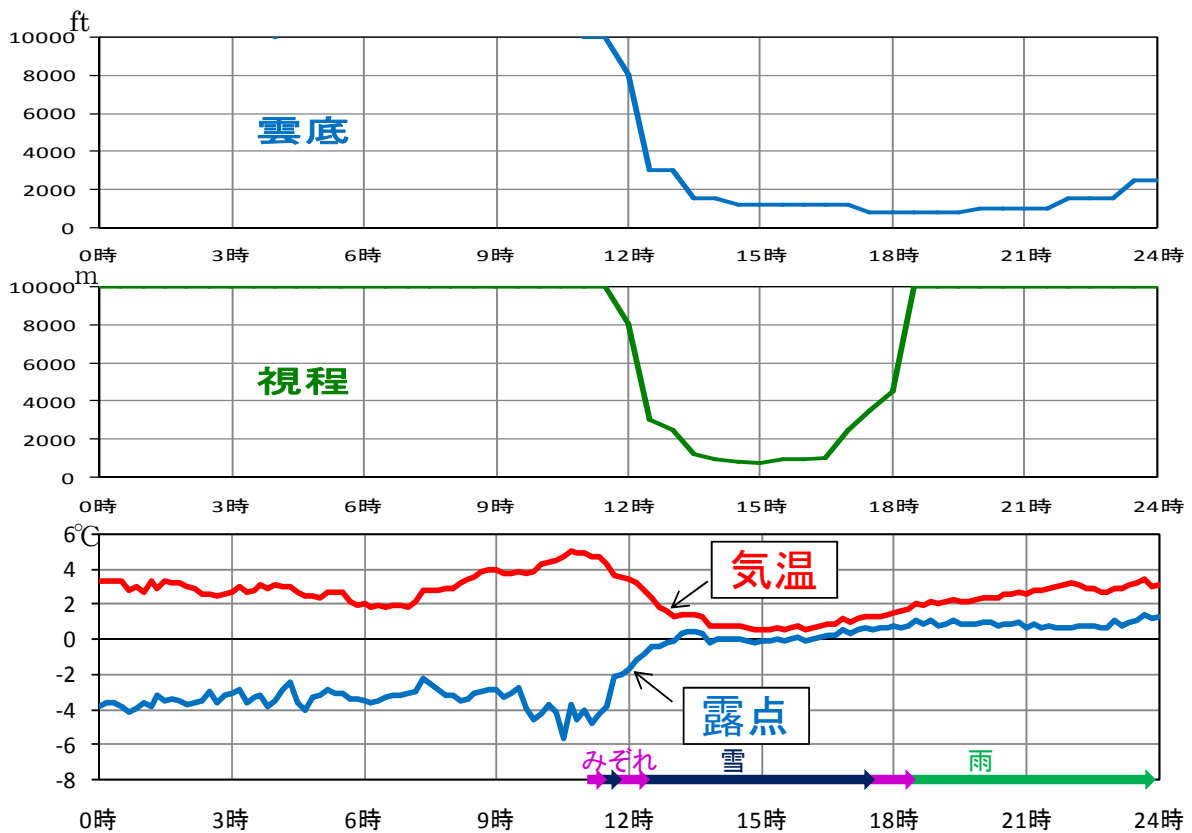
第7図 2月14日9時の解析雨量

(2) 関空島の実況と予想

11日に降雪をもたらせた低気圧が東海上で発達して、12日から13日にかけて冬型の気圧となった影響で、14日は西日本の下層には寒気が残っている状況でした。11日と同じように14日朝には関空島の上空では975hPa（高度350m付近）より高いところで気温は氷点下となることが予想されていました。

朝9時の実況は、気温3.9℃、湿度61%となっており、第7図にみられるレーダーエコーが関空島に広がれば、みぞれや雪の降りやすい状況でした。11時20分にみぞれが降りだし、正午過ぎには雪となって卓越視程5000m以下の状態が18時にかけて続き、最も雪の強まった15時頃には卓越視程が700mに悪化しています(第8図)。また、15時には1cmの積雪を観測しました。

このあと、18時過ぎには気圧、気温とも上昇傾向に転じて天気は雨に変わり、視程も回復、一時的に800ftに低下していた雲底高度も21時頃から上昇しています。22時頃からは、北西風になり、雨域も15日明け方には東に抜けました。



第8図 14日の雲底・視程・気温・露点・天気の変化

(3) 飛行場予報等

飛行場予報等の発表状況は以下のとおりです。

①飛行場予報

TAF RJBB 130840Z 1309/1412 07007KT 9999 FEW025 SCT050
 TEMPO 1400/1403 3000 -SN BR
 TEMPO 1403/1409 3000 -RASN BR FEW004 BKN008 BKN015=

TAF RJBB 131439Z 1315/1418 09008KT 9999 FEW030 BKN050
 TEMPO 1403/1409 2500 -SNRA BR FEW004 BKN008 BKN015
 BECMG 1412/1415 30007KT
 TEMPO 1412/1415 4000 -SNRA BR=

TAF RJBB 132040Z 1321/1424 06009KT 9999 FEW020 BKN045
TEMPO 1403/1406 3000 -SNRA BR
TEMPO 1406/1412 2500 -SNRA BR FEW004 BKN008 BKN015=

TAF RJBB 140242Z 1403/1506 05013KT 7000 -RASN FEW006 SCT010 BKN020
TEMPO 1404/1406 4000 -RASN BR
TEMPO 1406/1412 3000 -RASN BR FEW005 BKN008 BKN015
BECMG 1415/1418 34008KT=

TAF AMD RJBB 140427Z 1404/1506 05013KT 4000 -SNRA FEW006 SCT010
BKN020
TEMPO 1404/1412 1500 -SN BR FEW005 BKN008 BKN015
BECMG 1412/1415 8000 NSW
BECMG 1415/1418 34008KT=

TAF AMD RJBB 140540Z 1405/1506 05013KT 4000 -SN FEW006 SCT010 BKN020
TEMPO 1405/1412 0900 SN FEW005 BKN008 BKN015
BECMG 1412/1415 8000 NSW
BECMG 1415/1418 34008KT=

②飛行場警報

なし。

③飛行場気象情報

14日 13時 40分 大雪に関する飛行場気象情報第01号
14日 18時 10分 大雪に関する飛行場気象情報第02号 (解除)

④FCST COMMENT

13日 16時 00分 FCST COMMENT (冬期情報)
14日 07時 00分 FCST COMMENT (定時)
14日 16時 00分 FCST COMMENT (冬期情報)

注) この資料は速報としてまとめたもので、後日訂正や追加をすることがあります。

発行日：平成 23 年 2 月 16 日
発行元：関西航空地方気象台
編集：航空気象懇談会事務局